

4. 地域包括支援センターの運営について

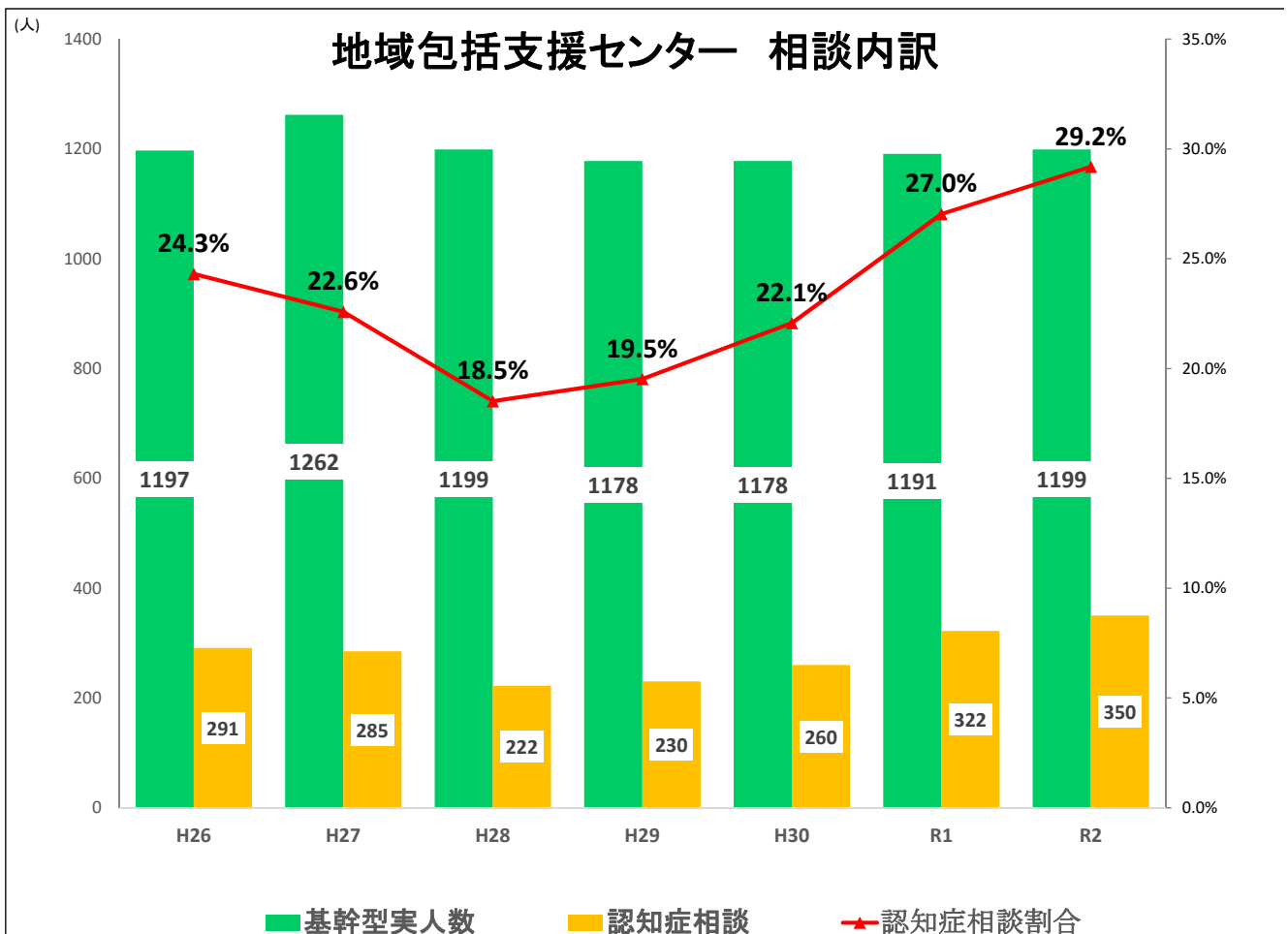
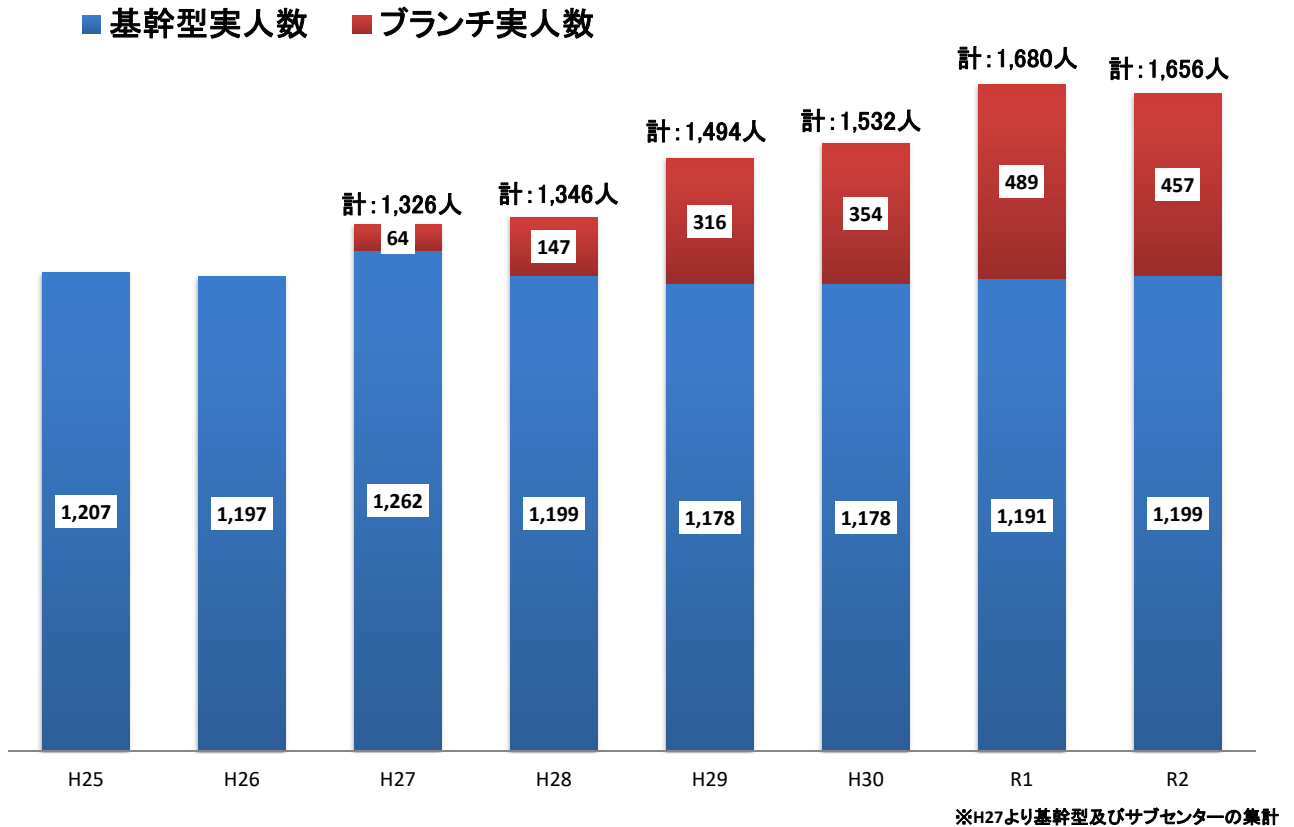
(1) 令和2年度の実績について



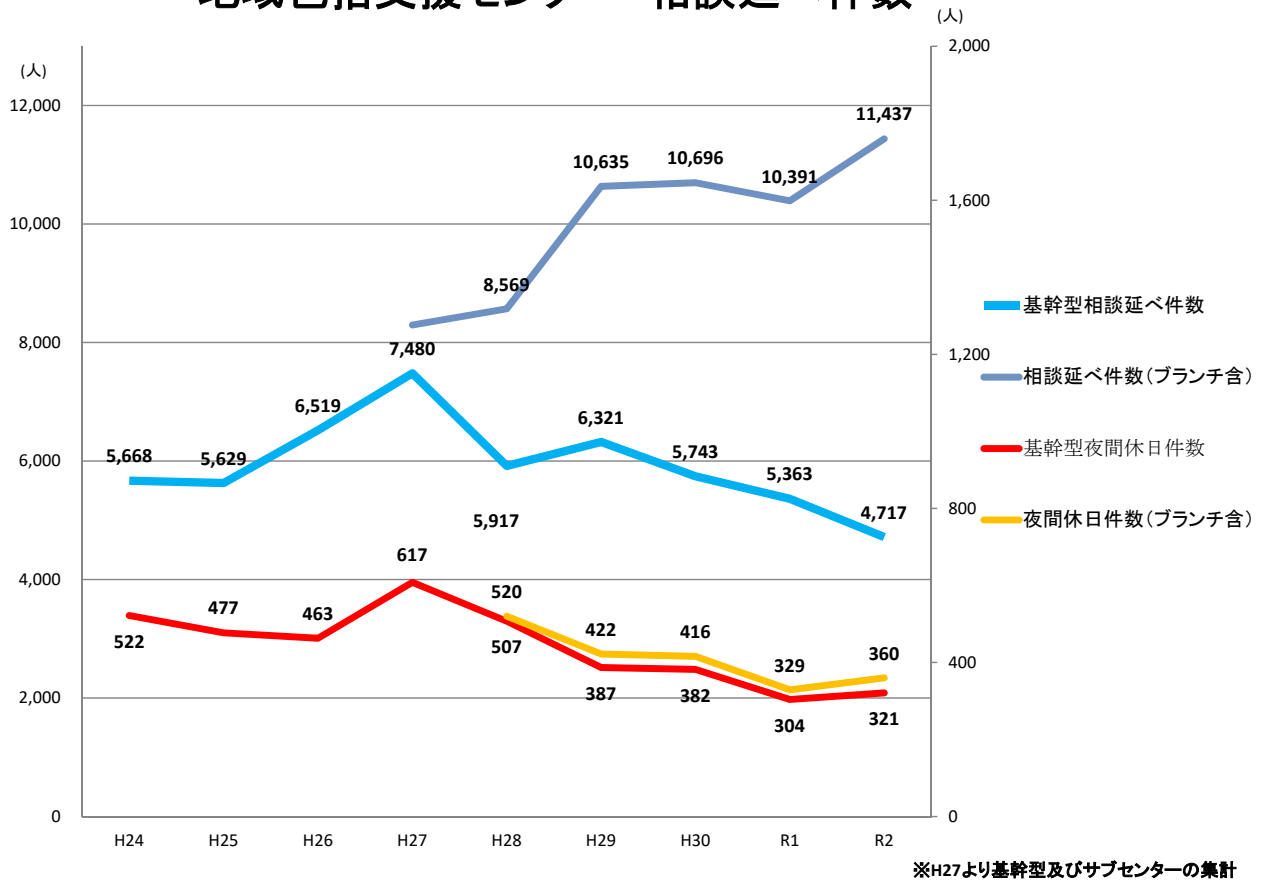
加賀市市民健康部介護福祉課

令和3年7月1日

地域包括支援センター 相談実件数



地域包括支援センター 相談延べ件数



令和2年度 地域包括支援センターランチ相談件数（延べ）

R2年4月～R3年3月	相談件数 (件数を入力)											全体 ①+② 合計	地域ケア 会議 (個別) (件数)	社会資源 の関わり (回数)	研修 連絡会等 (回数)
	日中(日報合計①)					夜間 (日報合計②)									
	訪問	来所	電話		その他 (メール・文書)	訪問	来所	電話		その他 (メール・文書)					
相談			連絡・調整	相談				連絡・調整							
なでしこの家	310	10	280	40	0	0	0	16	1	0	657	0	8	32	
きょうまち	301	28	113	146	7	1	0	0	0	0	596	0	18	17	
なんごうえがお	106	14	176	229	1	1	0	4	0	0	531	0	117	24	
すみれの家	205	35	233	193	3	1	0	0	0	0	670	0	17	24	
ききょうが丘	211	19	209	69	7	1	0	0	1	0	517	4	8	22	
いらっせ庄	57	3	67	19	4	0	0	0	0	0	150	0	2	23	
ちょくし	39	3	7	40	0	0	0	0	1	0	90	0	16	18	
いらっせ湖城	378	13	245	102	1	0	0	0	0	0	739	1	3	20	
きんめい	180	18	83	114	5	0	0	0	0	0	400	0	77	26	
はしたて	155	7	124	33	2	0	0	6	0	0	327	0	20	17	
ひまわりの家	63	19	79	137	1	0	0	0	0	0	299	0	13	23	
いらっせ分校	105	1	36	90	0	0	0	0	0	0	232	0	31	12	
いらっせ松が丘	114	2	17	248	0	0	0	0	0	0	381	0	11	20	
さくみ	127	12	141	383	0	0	0	2	0	0	665	0	44	23	
お茶の間さろん	265	15	139	40	3	1	0	1	2	0	466	0	14	21	
合計	2,616	199	1,949	1,883	34	5	0	29	5	0	6,720	5	399	322	
日中夜間別合計	6,681					39									

令和2年度 地域包括支援センターブランチ相談件数（新規実件数）

地区	事業所名	新規相談受付件数 (総数)	地区集計	新規相談受付件数 (包括経由)	地区集計	新規相談受付件数 (包括経由除く)	地区集計
大聖寺	大聖寺なでこの家	84	160	49	98	35	62
	小規模多機能ホームきょうまち	76		49		27	
南郷	小規模多機能ホームなんごうえがお	62	62	16	16	46	46
山代	山代すみれの家	108	178	46	93	62	85
	ニーズ対応型小規模多機能ホームききょうが丘	70		47		23	
庄	小規模多機能ホームいらっせ庄	23	23	15	15	8	8
勅使・東谷口	小規模特別養護老人ホームちよくし	24	24	6	6	18	18
片山津	小規模多機能ホームいらっせ湖城	86	86	32	32	54	54
金明	小規模多機能ホームきんめい	34	34	8	8	26	26
橋立	小規模多機能ホームはしたて	41	41	22	22	19	19
動橋	動橋ひまわりの家	40	40	11	11	29	29
分校	小規模多機能ホームいらっせ分校	27	27	12	12	15	15
作見	小規模多機能ホームいらっせ松が丘	32	78	26	52	6	26
	小規模多機能ハウスさくみ	46		26		20	
山中 (温泉、西谷、東谷)	富士見通りお茶の間さろん	88	88	31	31	57	57
合計			841		396		445

●新規件数841件のうち、ブランチへ直接相談している件数が445件であり、約半分となっている。

相談内容の傾向

- 統合失調症や躁うつ病、アルコール依存症等精神疾患を抱えた高齢者の相談が増えている。
- 世帯に支援を必要とする家族がおり、高齢者のみならず、家族支援が必要なケースが多い。(生活困窮、家族が精神疾患を患っている方など)
- 身寄りがいない方の支援。
- 医療につながっていない方への支援。
- 65歳未満の方の生活支援の相談

・断らない相談窓口機能を整備するため、令和3年度より、市の機構改革に伴い、障がいのある人の相談も含め、地域包括支援センターで一体的に相談が出来る体制を整備。

・今後は、相談支援事業所等との連携、地域包括支援センター職員の質の向上が必要。

地域包括支援センターブランチの設置及び地域福祉コーディネーター業務内容

①ブランチの主たる業務

○地域の身近な窓口として基幹型地域包括支援センター(直営)につなぐこと

【事業内容】 地区の高齢者の個別相談、支援、個別の地域ケア会議等

【機能】 24時間365日の対応、必要時の訪問、緊急宿泊対応可能

②地域福祉コーディネーター業務の主たる活動内容

○友人、ご近所、世話焼さん、地域団体等の担い手とのコーディネートや個の支援をとおり地域づくりに繋げること

【事業内容】 地域資源の把握、開発、関係者間の情報共有、交流活動の開催支援

【機能】 高齢者と地域資源をマッチングするためのコーディネート機能

地域の地域福祉活動拠点等後方支援

目指すべき姿

①早めの出会いと身近で相談しやすい拠点

⇒地域で身近な相談体制やすぐに駆けつけられる体制

②どんな状態になっても地域で暮らし続けられる体制

⇒介護サービス利用有無にかかわらず「柔軟性」「緊急時対応」「訪問機能の充実」が必要

③地域での住民主体の生活支援の体制構築

⇒介護問題を地域住民が自身のこととしても捉えられるような、地域全体で支える仕組み、機会の創出(高齢者の社会参加できる人はたくさんいる)

◆地区はそれぞれ、住んでいる人の考えや風習、社会資源が異なる。その特徴を生かし、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるような地域をつくることを目指す。

令和2年度ブランチ連絡会実績

回数	開催日	主な内容	参加人数	
			ブランチ	包括
1	4月3日	職員紹介(包括、ブランチ、つむぎ)、各事業における新型コロナウイルス対応	21人	8人
2	6月19日	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業、新規介護保険サービス事業	15人	3人
3	7月3日	個人情報の取り扱い(講義)、R1年度統括表振り返り	17人	9人
4	8月7日	短期集中予防サービス、新型コロナウイルス感染症予防対策「加賀市八重の盾」	20人	9人
5	10月7日	新型コロナウイルス感染症予防パス、公共交通、ブランチ研修(コロナ対応、今年度の勉強会)	21人	7人
6	11月4日	新型コロナウイルス対応向上研修会を終えて、健康サポート薬局研修会の報告、ブロック連絡会の進め方	22人	8人
7	12月9日	新型コロナウイルス対応向上研修会を終えて、県認知症フォーラム(動画視聴)、虐待リスクチェック	21人	7人
8	2月10日	地域福祉コーディネーター業務について(リモート特別講義、活動記録作成)	20人	7人
9	3月3日	第8期介護保険事業計画、今年度の振り返りと来年度の活動について	19人	7人

5月、9月は新型コロナウイルス感染拡大により中止。1月は大雪により中止。

*毎月、ブランチ連絡会の後、4圏域でブロック連絡会を開催している。
→4~10月、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。1月大雪のため中止。

*ブロック連絡会での協議事項については、翌月のブランチ連絡会で報告している。

*必要に応じて基幹相談支援センターの相談員と第1層生活支援コーディネーター(かもママ)が、ブランチとの連携のため連絡会に参加。

令和2年度 ブランチ勉強会実績

	日付	講師	内容	参加人数
1	令和2年10月30日 14:00～17:00 文化会館 2階	講師:奥 知久氏 (公益財団法人風に立つライオン基金 医師)	新型コロナウイルス感染症対応力向上研修 及びゾーニング(現地指導)	68名 (地域密着型 サービス事業所 職員、一般市民 含む)
2	令和3年1月19日 10:00～16:00 アビオシティ加賀	講師:岩尾 貢氏 (石川県認知症介護指導者・社会福祉法人共 友会 理事長) ファシリテーター:蔭西 操氏 (石川県認知症介護指導者・認知症疾患医療 センター 精神保健福祉士)	面接技術研修「かかわりとは」 相談援助の基本の「き」 ・相談援助の基本姿勢について ・バリエーションの7つの原則について ・ポジショニングや面接時の態度、 ・面接の基本について	31名
3	令和3年3月1日 13:30～15:30 加賀市役所	講師:基幹型地域包括支援センター職員 勅使・東谷口地区高齢者こころまち センター職員	ブランチ勉強会(理解編) ・オリエンテーション ・加賀市地域包括ケアビジョンとは ・包括の機能ブランチの役割	22名

* 地域包括支援センター(基幹型・サブセンター)職員も勉強会と一緒に参加している。

* 新型コロナウイルス感染拡大により、面接技術研修を短縮して1日開催とし、ブランチ勉強会(実践編)は中止。

* ブランチ勉強会(基礎編)については、本年度より、毎月開催のブロック連絡会での事例検討に置きかえ、中央での研修会は中止

地域福祉コーディネート活動の実績

地区	事業所名	令和2年度 社会資源と のかかわり	共通の取り組み	主な独自取り組み
大聖寺	大聖寺なでしこの家	8回	(顔の見える関係づくり) ・まちづくり、民生委員、区長等への挨拶 ・民生委員定例会の参加	・「仕合せ座談会」、「しあわせ交流会」の開催 ・地域交流室を地域の方に開放
	小規模多機能ホームきょうまち	18回	・地域おたしやサークル・サロンへの参加 ・老人会へ挨拶、老人会行事の参加	・「仕合せ座談会」、「しあわせ交流会」の開催 ・寺小屋きょうまちで地域の方々と交流
南郷	小規模多機能ホームなんごうえがお	117回	・見守り座談会の参加 ・かがやき予防塾への参加	・地区の防災訓練へ参加 ・独居や高齢夫婦世帯把握のためのマップ作り
山代	山代すみれの家	17回	地区まちづくり広報への掲載依頼 (ブランチの周知)	・「山代地区を良くする会」の立ち上げ支援 ・山代中学校の雪かきボランティア立ち上げ支援 ・「山代地区元気ですかコール隊」の立ち上げ、電話でつながろう作戦 を考え、チラシを配布
	ニーズ対応型小規模多機能ホームき きょうが丘	8回	・社会資源マップの作成 ・社会資源情報の一覧表作成 (立ち上げ支援)	・「山代地区を良くする会」の立ち上げ支援 ・山代中学校の雪かきボランティア立ち上げ支援 ・薬局との連携
庄	小規模多機能ホームいらっせ庄	2回	・サロンの立ち上げ支援 ・地域型元気はつらつ塾立ち上げ支援 (住民への啓発活動)	・若葉台の一人暮らし高齢者を地図でマッピング ・庄地区総合文化祭へ参加し地区高齢者こころまちセンターの周知啓 発
勅使 ・東谷口	小規模特別養護老人ホームちよくし	16回	・通いの場における感染症予防講座の開催 ・認知症ケアバスの普及活動 (協議体)	・地区高齢者こころまちセンターのチラシを全戸配布 ・はまちゃん先生との「介護・健康相談会」の開催
片山津	小規模多機能ホームいらっせ湖城	3回	・運営推進会議(第2層協議体)の開催	・地域食事会の開催 ・町の消防訓練に参加
金明	小規模多機能ホームきんめい	77回		・住民と共にキラキラ探しと称し、町内の「いいところ探し」(社会資源の マッピング) ・野田町・宮地町で住民が集える場の立ち上げ支援
橋立	小規模多機能ホームはしたて	20回		・地域食堂「かしき」の立ち上げ支援 ・利用者と住民との交流が行えるよう「おでんの会」開催 ・高尾町サロンの立ち上げ
動橋	動橋ひまわりの家	13回		・社協主催の「地区座談会」に参加 ・地域住民、利用者家族向けに介護予防教室を開催 ・動橋地区一人暮らし高齢者の集いへ参加
分校	小規模多機能ホームいらっせ分校	31回		・町内の祭りでの模擬店手伝い ・小学生との交流
作見	小規模多機能ホームいらっせ松が丘	11回		・地域おたしやサークルへのロコモ予防講師 ・地域住民へ地域交流室の開放(健康麻雀)
	小規模多機能ハウスさくみ	44回		・作見地区女性部や児童センターへの顔出し ・圏域内の医療機関へ地区高齢者こころまちセンターの説明に向く
山中 (温泉、西谷、 東谷)	富士見通りお茶の間さろん	14回		・個別地域ケア会議の開催 ・四十九院町の集いの立ち上げ支援

月報及び地域福祉コーディネート活動記録(各地区高齢者こころまちセンターより提出)抜粋

加賀市地域包括支援センター自己評価 (基幹型(サブセンター含む)・ブランチ)

【経緯】

「地域包括支援センター設置運営について」(老老発第1018001号)において地域包括支援センター業務を委託また直営の場合も市がセンターの運営方針を示すことが望ましく、平成28年3月『加賀市地域包括支援センター基本方針・運営方針』を策定。基本方針を自己評価項目に反映した。

【評価目的】

地域包括支援センターブランチ及び地域福祉コーディネート委託業務と基幹型地域包括支援センター(サブセンター含む)業務について、一定の基準にて評価し、その結果を活かしてより良い運営・実践に向けた取組みを推進することを目的とする。

【評価回数】

毎年度1回実施する。

【評価の仕組み】

- (1) 運営内容を確認するための基準チェックシート
- (2) 事業実施方針を具現化するための実践チェックシート

【評価の流れ】

評価結果に関しては、運営推進会議に諮り、地域住民の意見をもらい改善すべき事項については、業務や取組みに反映していく。

運営内容を確認するための主な内容(参考)

<ブランチ>

① 主な基準項目(評価シート1～11)

- ・職員の適正配置(専門職の確保)
- ・提出物の作成と提出状況
- ・緊急時、苦情受付体制整備、個人情報保護
- ・ネットワーク構築、社会資源の把握と支援
- ・総合相談、介護予防の取り組み
- ・中立・公正性の確保

② シートの構成

- ・11項目27設問で全設問「はい」・「いいえ」で回答
- ・「いいえ」の場合は不十分という自己評価

<基幹型>

① 主な基準項目(評価シート12～15)

- ・認知症高齢者支援、権利擁護、ケアマネジャー支援
- ・ブランチとの連携と支援

② シートの構成

- ・4項目11設問で全設問「はい」・「いいえ」で回答
- ・総評は所長・リーダーにて状況や改善策を記入

ランチ(15か所)	
①項目状況	・「いいえ」なし:8事業所、「いいえ」1項目:4事業所、「いいえ」2項目以上:3事業所
②主な「いいえ」の項目	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題のまとめ、地区単位の地域ケア会議の開催が出来ていない。 ・定められた期日までに提出が出来ていない。 ・基幹型職員と協働して地域の課題をまとめられていない。 ・相談実件数が75歳以上の高齢者の1割程度ない。 ・軒下マップの作成が訪問実人数のうち70%以上に満たなかった
③総評 (相談実績及び統括表から)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大により事業所への出入りが出来ず、まちの会合にも参加できず、地域の方と出会う機会が少なく残念だった。 ・初期訪問や基本チェックリスト訪問は、対応できる職員を少しずつ増やしランチ全体で対応できる仕組みにしている。 ・地域の身近な相談窓口として認知され、ランチに直接相談する件数が多くなっている。 ・軒下マップを活用し、本人の「～したい」暮らしに着目し支援している。 ・相談ケースの課題から、地域の居場所など地域住民と共に一緒に考え展開している。 ・地区地域ケア会議を実施しているランチが増えており、地域の人と共に地域課題の解決に向けて取り組んでいる。
基幹型	
総評	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチの活動から地域課題が見えるように、訪問ケースのデータが見える化し、地域ケア会議で返していく。地区担当が意識して、今後も、ランチ、地域と共に地域ケア会議を通して地域づくりを展開していく。 ・従来のランチ活動に生活習慣病予防の視点を持った関わりが出来るよう体制を強化していく。 ・専門職だけでなく地域住民と共に地域包括ケアシステムの構築にむけて強化していく。